

2012 2/28

No.1917

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

—神奈川政経懇話会—



開成町金井島の古民家「あしがり郷 瀬戸屋敷」で、江戸期の品を含む伝統的な段飾りとつるしびなを集めたひなまつりが開かれている。3月4日まで。



contents

視点・点描	3
共感ツール 感動と冷や汗	
講演録	4
「日本経済と電力・エネルギー事情」 一橋大学大学院商学研究科教授 橋川 武郎	
政治	8
野田内閣、危険水域に突入 消費税増税の厚い壁	
国際	10
若き正恩氏の統率力に疑問符 弾道弾発射、核実験の懸念も	
くらし2012	12
「診療看護師」誕生へ	
広告珍談	14
～キキメある人と顔と 空を飛んだ英雄	
経済ニュースから	15
神奈川新聞の経済ニュース	

事務局だより

◇神奈川TOPセミナー

3月12日（月）

ホテルニューグランド

富士ゼロックス神奈川株式会社と共催。

▽特別講演＝15時半～16時40分

講師は前全日本女子バレーボールチーム監督の柳本晶一氏。

演題は「組織を成功に導く女性人材の活用術」

▽基調講演＝16時50分～17時50分

講師は松下政経塾理事長兼塾長の佐野尚見氏

演題は「松下幸之助と松下政経塾」

▽交流会＝18時～

視点 点描



共感ツール 感動と冷や汗

界で8億人を超え、日本での利用者は約1千万人とされる。実は記者も昨年のスマホ購入をきっかけに会員になった。

交流サイトは、ネット上に自分のプロフィールを載せて公開することで、共通の関心事や趣味を持つ

会員同士を結び付ける機能を持つ。「友達」になれば、携帯やパソコンで情報交換や会話をするのが可能だ。最近では東日本震災の際に情報伝達手段として活用

されたことでその存在感が増した。また、「アラブの春」と呼ばれたエジプトなどの反体制運動や米

国の格差是正デモでは、交流サイトの参加者が運動の大きなうねりを起こす原動力となった。人と人

とを「共感」や「感動」という見えない糸で結び付け、時には大きな社会運動さえも生むサイトは一

方で、想定外のハプニングを呼び起こすこともある。私事で恐縮だが、記者の場合は、自己紹介の欄で恋愛対象を「男性」か「女性」かの二者択一から選ぶ個所に「男性」と誤ってチェック。しかも、そのことに最近まで気付かず、冷や汗をかいた。

この類のトラブルなら笑い話で済むが、FBへの書き込みで大統領をばか扱いした韓国の判事が失職したり、警察の幹部が職務上知り得た情報を投稿して問題となるなど、実害も目立ち始めているから厄介だ。特に「器」の違いからだろうが、ネット上の書き込みは印刷が前提の文章に比べて短く、くだけた表現になりがちだ。人と人との新たな「絆」を生むツールの特性を知った上で、スマートな使い手を目指したい。

（神奈川新聞社
統合編集局次長 宮本 敏也）

手のひらの「利器」に注いだ視線が歩行中でさえ外せない。そんな「中毒者」が急増しているせいだろうか。駅の構内で最近、歩行中に多機能携帯電話（スマートフォン）を使うことをご法度として戒めるポスターを頻繁に見かけるようになった。

確かに電車内でスマホを使っているとつい夢中になってしまいうる。目的の駅に到着していき降車する

段になっても、視線は斜め下45度にくぎ付け。危ないとは分かっているけど、そのまま歩きだしてしまっただけという経験のある読者も多いのではないかと。人々を「スマホながら族」へと変身させるけん引役といえば、さきごろ株式上場を申請したインターネット交流サイト最大手の「フェイスブック」(FB)の存在が挙げられるだろう。利用者は世

空を飛んだ英雄

映画《翼よ、あれがパリの灯だ》にもなった、有名な飛行がある。

1927年5月20日の朝、アメリカ人リンドバーグは「スピリット・オブ・セントルイス号」で、

ニューヨークのルーズベルト飛行場を飛びたち、5809キロを33時間29分で飛行。21日の日没後、

パリに着陸した。世界初の北大西洋単独無着陸横断飛行である。

賞金、2万5000ドルを獲得。その名は世界に知られたり、空の英雄と讃えられた。

チャールズ・リンドバーグは29年、デトロイト生まれ。大学を中退、陸軍飛行学校で航空教育を受け、26年、セントルイス・シカゴ間の郵便飛行機の操縦士になる。

翌年、セントルイス財団の支援を受けて、横断飛行に挑戦した。

31（昭和6）年8月26日、リンドバーグは夫人とともに水上飛行機で北太平洋を横断、来日した。

明治製菓は、降り立った夫妻の報道写真をそのまま、

そのまま、

広告に使用。到着の翌日に掲載した。ニュー

スをいち早く取りこんだ、みごとな広告である。

コピーは「歓迎 空の大使 リンドバーグ夫妻」「滋養の使途 明治チョコレート」。

飛行服に身を包んだ夫人は小説家である。夫の飛行機に同乗した

体験記「聞け！ 風が」や随筆「海からの贈り物」、小説「けわしい坂」がある。53年、リンドバーグの著書『スピリット・オブ・セントルイス号』は、ピュリッツァー賞を受賞した。

栄光の飛行機ライアンNYPIは、ワシントンのスミノニアン航



空博物館に保存されている。横断飛行の翌年、毎日新聞社は同型機を購入。取材活動に飛びまわった。

これまた、みごとな広告根性ではないか。

昭和初期、飛来する航空機で日

本の大空はにぎわった。その主役たちは広告に登場して、読者は新しい時代の息吹を確認したのである。1例を……29年8月19日、20人の乗客とともに世界一周するドイツの飛行船「ツェッペリン伯号」が飛来。浅草や銀座をへて、神奈川県庁の上空を旋回した。ゆつたりと天空を行く巨大船をとらえて、「歓迎 巨船Z伯号 東京支店楼上より」と福助足袋は広告した。

31年10月4日、青森県津代海岸を飛びたつて、北太平洋無着陸横断したのはアメリカの「ミス・ビードル号」。7910キロを41時間12分で飛行、北米のウエナツチに着陸した。三菱商事燃料部が、「太平洋の魔空は征服さる」「新しき空の英雄」「偉大なる油の力！」と掲載したのは、横断成功の翌日であった。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)
(図) 明治製菓の新聞広告・1931（昭和6）年8月27日掲載